

図-2 汚泥の減量化技術の提案事例
 -下水道革新的技術実証事業 (出典(2))

応できない水準が求められている。

対応する技術として乾燥・焼却が主要な単位操作である。すでに欧州を中心に最新技術の導入が始まっており、膜処理技術同様今後の競争激化が予想される。従って我が国の方向性としては、国内で多くの実績がある乾燥・焼却・熔融技術の展開を図る一方、一層の省エネ、創エネが求められる低炭素社会での活用を念頭におき、バイオマスのエネルギー活用技術をさらに高水準とし、加えて優れた技術に一定の評価を与える必要がある。その一例を図-2に示す。

4. おわりに

図-3は、急激な成長・発展を遂げるアジア等の都市では、都市の持続的発展過程において本格的な下水道が必要となることを示したものである。一方2002年のヨハネスブルグサミットで提唱された「2015年までに基本的衛生施設を利用できない人々の割合を半減する」の目標達成にむけた取組も継続して実施する必要がある。

従って先に紹介した最先端技術だけでなく、地域特性に応じた適正な技術の育成・移転も今後の大きな課題である。国総研も研究分担するJICA-JST事業「アフリカサヘル地域の持続可能な水・衛生システム開発 (出典(4))」がその一端を担うものとして注目される。また課題解決の中心的役

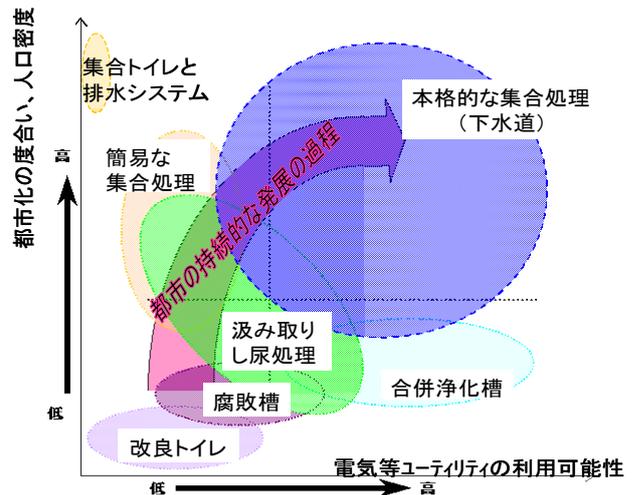


図-3 衛生処理の発展段階 (出典(3))

割を国総研、土研の若手職員が担うことが求められている。内外の様々な現場を体験した上で、自由かつ大胆な発想と着実な行動力に根差した活動を期待する。

参考文献

- 1) 下水道グローバルセンター第2回審議会資料より
http://www.gcus.jp/report/wholeReport/pdf/ouncil02_data02.pdf
- 2) 平成23年度都市地域整備局関係予算概算要求概要
<http://www.mlit.go.jp/common/000122347.pdf>
- 3) 「水、使えされれば満足ですか」第3回世界水フォーラム下水道委員会作成パンフレット、2003年3月
- 4) JST資料より
http://www.jst.go.jp/global/kadai/h2112_burkinafaso.html